

2017年8月16日  
九州旅客鉄道株式会社

2018年3月期第1四半期決算電話会議 主なQ&A

Q 第1四半期の鉄道旅客運輸収入について、対前年で41億円の増収となっているが、これらは全て平成28年熊本地震の反動によるものなのか。

A 今期の通期予想において、鉄道旅客運輸収入の地震の反動を30億円程度と見込んでいたが、前期の7月以降は地震の影響が落ち着いてきていたことをふまえると、その大部分が第1四半期に出てきていると考えている。

地震の反動とそれ以外の増要因を切り分けて特定することは困難であるが、梅雨時期に天候に恵まれたことやゴールデンウィークの曜日配列等により、お客さまのご利用が堅調に推移したことも増要因としてあげられると考えている。

Q 九州北部豪雨について、具体的な被害状況を教えてほしい。

A 現時点において、久大本線（橋梁の流出や信号ケーブルの断線等）、日田彦山線（橋梁部の変状や線路の流出、踏切設備の損傷等）、その他線区（倒木や土砂流入等）で、約110件の被害を把握している。

Q 九州北部豪雨の業績への影響について教えてほしい。運輸取扱収入（7月速報）の中長距離が前年を下回っているのは、その影響なのか。

A 費用については、現在、被害状況の調査や復旧工法の検討等を行っている段階のため、言及することができない。運輸取扱収入（7月速報）の中長距離が前年を下回っている要因としては、九州北部豪雨の影響も多少はあるが、熊本地震の反動が落ち着いてきていることの方が大きいと見ている。

Q 駅ビル・不動産セグメントの不動産賃貸について、増収増益の要因を教えてほしい。

A 昨年4月に開業したJRJP博多ビルの平年度化や新規の賃貸マンションの入居開始に伴う賃貸収入の増が主な要因である。

Q ホテル事業について第1四半期の状況を教えてください。

A ホテル全体では、稼働率は前年比プラス、客室単価はほぼ前年並みである。また、JR九州ホテルブラッサム那覇については、6月に予定通り開業を迎えている。

Q 第1四半期における成長投資の進捗状況を教えてください。

A 成長投資の主な進捗は、東京での賃貸マンション取得や福岡天神地区での土地取得、また那覇におけるホテル開業等である。

Q キャタピラー九州株式会社の株式取得について、その狙いを教えてください。

A キャタピラー九州株式会社は、建設機械の販売、レンタル等を行っている会社であり、当社グループが関係する工事での利用や、当社の金融子会社を活用したレンタル事業の拡大、鉄道車両や機械設備の製造保守の分野での連携強化によりシナジーを創出できると考えている。

Q キャタピラー九州株式会社の株式取得について、同社の子会社である農業会社の取得についても協議中とのことだが、農業会社を取得する意図やシナジーを教えてください。

A 当社グループも農業事業を営んでおり、仮にキャタピラー九州株式会社の子会社である愛菜ファーム株式会社を取得することになれば、既存事業との相乗効果や事業の拡大が図られると考えている。

Q キャタピラー九州株式会社の株式取得は、中期経営計画に示している成長投資に含まれるのか。

A 株式取得（M&A）については、中期経営計画の設備投資額（成長投資 800 億円）に含まれていない。

以上